

McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds):
The Historical Development of Physiological
Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

編集後記

「総会抄録号」をお届けする。今回の演題数は、特別講演・会長講演・誌上発表を含めて全七三題。昨年と並び過去最高の演題数で、内容も多岐にわたる。まことに喜ばしい限りで、まもなく京都で開かれる総会が楽しみでならない。ただ毎回抄録号を校正していても若干困惑するのは、投稿抄録原稿にまま不備が見られることである。数が多いことも、また期限に制約もあることから、抄録号では原則として著者校正はない。その点からも、規定に則り、誤植を生じないよう、また刷上り二頁に収まるよう、御配慮いただければ幸である。▼今号から編集委員として新たに瀧澤利行・町泉寿郎の両氏が加わることになった。深瀬委員長のもと、よりよい雑誌作りをめざして努力する所存で

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二二〇〇三 東京都文京区本郷六一一七一九

本郷綱ビル二階

財団法人日本学会事務センター学会共同編集室内、
日本医史学雑誌編集委員会

あるので、一層の御支援を賜りたい。▼本号二九八頁の公告にあるように、本誌前号においてきわめて遺憾な不祥事が発生した。原著論文の本誌と他雑誌(「洋学」)への二重投稿である。今回の件は、ほぼ同時に同内容の原稿を両誌に投稿されたようで、こうなるとチェックのしようがない。公刊されたのが「洋学」が三ヶ月ほど早かったから、本誌前号の当該論文は認めることはできない。刷り直しを、との意見もあったが(理想としてはそうあるべき)、それには多額の費用を要する。会員の貴重な会費を浪費することもできない。結局は「なかったことにする」しか手はなかったのである。それにしても本学会の被った害は少くない。会員諸氏には以上の経緯を御考慮のうえ、御理解と御寛容を賜りたい。(小曾戸 洋)